

三豊総合病院雑誌

Journal of Mitoyo General Hospital

Vol.40

December 2019

| | | | |
|----------------|---|--------|-----|
| 巻頭言 | 三豊総合病院雑誌第40巻の刊行に寄せて —故陶山文三先生との思い出— | 那須 保友 | 1 |
| 原 著 | 三豊総合病院における尿管ステント挿入症例の検討 | 山田 大介 | 4 |
| | 当院における直腸癌に対する 経肛門的直腸間膜全切除術 (TaTME) の検討 | 浅野 博昭 | 9 |
| | 三豊総合病院における高齢者膀胱癌治療の現状 | 須藤 梢 | 15 |
| | 当院におけるCPTの取り組みについて | 野村 真也 | 21 |
| | 新人看護師対象脳卒中スケール研修教育再設計の試み | 篠原 都 | 27 |
| | 当院における圧縮センシングを併用した頭部MR Angiography の検討 | 中村 誠 | 37 |
| | 鬱血性心不全の一次予防 ～心不全予備軍患者への教育入院導入の試み～ | 土肥 良太 | 41 |
| | 食事満足度向上への取り組み | 葺坂 枝織 | 45 |
| | 地域病院との顔の見える連携 —大腿骨近位部骨折— | 小田 峻也 | 51 |
| | 三豊総合病院眼科外来におけるプリズム治療の現状 | 小畑 小由美 | 55 |
| 症 例 | 原発巣切除後転移巣が自然消褪した進行性腎癌の1例 | 上松 克利 | 62 |
| | 意思決定支援について考える —治療と緩和ケアのはざま— | 佐藤 愛子 | 67 |
| | CA19-9 高値検体で結果報告に苦慮した1例について | 瀧口 響子 | 71 |
| 報 告 | 当院におけるウイルス性肝炎対策チーム活動 | 守屋 昭男 | 75 |
| | 禁煙サポートチームの活動報告と今後の課題 | 遠藤 日登美 | 82 |
| | 第12回三豊総合病院学会を開催して | 曾我 部長徳 | 88 |
| CPC記録 | | | 97 |
| 診療実績及び 活動報告 | | | 107 |
| 研究教育活動 | | | 186 |
| 投稿規定 | | | 209 |
| 編集後記 | | | 210 |

Journal of Mitoyo General Hospital

Journal of Mitoyo General Hospital

Vol.40

December 2019

Contents

| | | |
|--|-------------------------|----|
| Preface | Y Nasu | 1 |
| Original Articles | | |
| Examination of ureteral stent insertion cases at Mitoyo General Hospital | D Yamada et al. | 4 |
| Transanal total mesorectal excision for rectal cancer: | | |
| An initial experience of 12 cases in our hospital. | H Asano et al. | 9 |
| Long term outcomes of pancreatic cancer in elderly patients | K Suto et al. | 15 |
| Child protection team activity at our hospital | S Nomura et al. | 21 |
| Trial of stroke scale training education redesign for new face nurses | M Shinohara et al. | 27 |
| Examination of head magnetic resonance (MR) angiography combined with compression sensing in our hospital | M Nakamura et al. | 37 |
| Primary prevention of congestive heart failure – Attempt to introduce educational hospitalization to patients likely to suffer from heart failure | R Dohi et al. | 41 |
| Efforts to Improve Hospital Meal Satisfaction | S Osaka et al. | 45 |
| Face-to-face collaboration with a regional hospital – Proximal femoral fracture | S Oda et al. | 51 |
| Current status of prismatic therapy for ophthalmology outpatients at our hospital | S Obata et al. | 55 |
| Case Studies | | |
| A case of advanced renal cancer with the spontaneous disappearance of a metastatic lesion after the resection of the primary lesion | K Uematsu et al. | 62 |
| Considerations on Decision Making Support – Between the Treatment and Palliative Care Teams | A Sato et al. | 67 |
| A case of a specimen with high CA19-9 levels, leading to difficulty in reporting results | K Takiguchi et al. | 71 |
| Miscellaneous | | |
| In-hospital activities of a countermeasure team against viral hepatitis | A Moriya | 75 |
| Activity report and future issues associated with a smoking cessation support team at our hospital | H Endo et al. | 82 |
| Organizing the 12th Hospital Scientific Meeting | O Sogabe | 88 |
| Report of CPC | | 97 |

三豊総合病院雑誌第40巻の刊行に寄せて —故陶山文三先生との思い出—

岡山大学 理事 (研究担当)・副学長
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 泌尿器病態学 教授

那 須 保 友

三豊総合病院の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、三豊総合病院雑誌の記念すべき第40巻刊行に際し巻頭言のご依頼をいただき、まことに光栄であります。診療業務で多忙を極めるなか、院内雑誌の刊行を継続することは並大抵の努力ではできませんが、40巻の刊行にこぎつけられたこと皆様のご努力に敬意を表します。

泌尿器科は初代医長の松本鉄二先生が昭和55年7月～平成2年12月まで勤められたのち、第2代目の医長として陶山文三先生が平成3年4月に岩国から着任されました。平成22年8月5日に陶山文三先生がご病気で急逝されたのちは、山田大介先生（平成11年7月より赴任）が第3代目の医長として就任され現在に至っております。山田大介先生は副病院長となり病院の管理・運営に注力されることとなり、上松克利先生が部長として臨床の現場の指揮を執っております。その間、それぞれの医長の下で育った泌尿器科医は26名になり各地で活躍をしております。また、初期研修を三豊総合病院にて行った後に泌尿器科に3名入局しております。今や、三豊総合病院泌尿器科は岡山大学泌尿器科関連病院においては大変人気のある病院であります。

私にとっては、陶山文三先生がおられた病院ということで大変思い入れの強い病院であります。あえて、先生とのいくつかの思い出を紹介させていただくことで巻頭言の一部とさせていただきます。

昭和56年入局の私は4月から陶山先生のウンテンとして泌尿器科医としてのスタートを切りました。泌尿器科医としての一歩からすべてのことを陶山先生から学びました。私生活では当時独身を謳歌していた陶山先生と一緒に毎夜仕事の反省会と称して飲み歩いていました。また看護婦さんたちの反省会もしばしば開催されましたが、おおらかな陶山先生の周りにはいつも笑いが絶えませんでした。コミュニケーション能力とノミニ（飲み）ケーション能力の重要性をこの時期に身をもって感じることでたとえ感謝しています。まさに陶山先生と寝食を共にした一年間でした。陶山先生は口癖のように「那須君、これとこれだよ！」と小指を立てるしぐさと、親指と人差し指で円を作って見せてくれました。「仕事や勉強が少々できなくても真面目に人の為にやっておれば何とかなる。しかし那須君、小指（女性問題のスキャンダル）と親指と人差し指（金銭問題のスキャンダル）は絶対にかんぞ。キレイにしておけよ。」以後、陶山先生は飲むとそのことを私への「言い付け」のようにおっしゃってくださいました。病状が悪化し、陶山先生は岡山大学のICUに入院されましたが、病床に駆け付けた当時研修医であったご長男に、「那須はなあ、俺の言い付けを若い時から忠実に守ったから教授になれたんや」と私を誇らしげに紹介してくださいました。奥様から「那須先生、それはどういふ言い付けだったのですか？」と尋ねられ、一瞬ためらいましたがその場でお話ししました。陶山先生は息も絶え絶えの病床で、目をつぶってうなずいておられました。先生は私の医者としてまた社会人としてのスタートという重要な時期に、ずっとそばにいてくださりいろいろな影響を与えてくださいました。その後も、元ウンテンとして弟のように目をかけてくださり、心配や励ましをいただけてきましたことを心より感謝しています。先生は早く逝ってしまわれましたが、「どや那須君、頑張ってるか？」というお声がいっつも聞こえてくる気がしますし、「先生の言い付けはちゃんと守っていますよ」「三豊総合病院をしっかり応援します」と答えております。

最後に三豊総合病院と関係者の皆様、そして本雑誌のご発展を御祈り申し上げ巻頭言とさせていただきます。